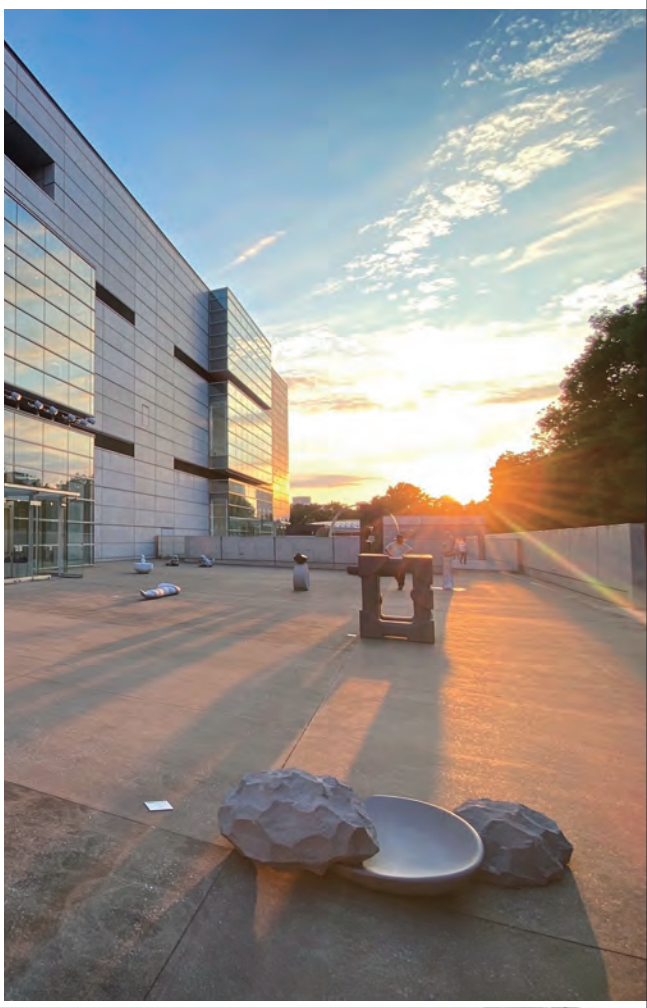
No.79　contents

2　第106回二科展 総括
3　〈絵画〉一人一人の作品を大切に―第106回二科展 絵画部展示について
4　〈絵画〉第106回二科展 審査・会場評　〈絵画・彫刻〉第106回二科展 受賞者
5　〈絵画〉第106回二科展 受賞作品―制作の視点
6　〈絵画〉作品寸評―第106回展 受賞作品から
8　〈絵画〉新会員紹介
9　〈彫刻〉総評
10　〈彫刻〉第106回二科展 受賞作品―制作の視点
11　〈彫刻〉受賞作品寸評　新会員紹介
12　event memo
13　彫刻部チャリティー「アートの芽を育てる新たな取組み」
　　二科ショップ・チャリティー報告
14　第106回二科展 巡回展スケジュール　地域展 二科展出品者支援
　　地域展の役割―関西二科展
15　2023リニューアル春季展への誘い　2023春季二科展 選抜出品予定者
16　訃報　帝国ホテル二科サロン　事務局だより　編集後記

二科

秋季

発行人：生方 純一　発行：公益社団法人 二科会
https://www/nika.or.jp/　TEL：03-3354-6646
E-mail：nika@nika.or.jp



106TH NIKA ART EXHIBITION 2022

絵画部 審査会　2022年8月29日

第106回二科展　総括

生方純一

第106回二科展はコロナ禍も治まらず、世情不安の中で周到な準備を重ねて予定通りに開催することができました。

天候も不順で異常な暑さの続く時期でもありましたが、絵画部・彫刻部ともに出品者が増え、関係者は大いに安堵いたしました。

審査は昨年同様に会場の密を避けるために人数制限がなされ、理事と運営委員による審査となりましたが、整然と行われ、結果的には偏りもなくバランスのいい審査になったと思います。

こうした少人数審査は混乱もなくスムーズで、今後の審査のあり方を示唆しているように感じました。

作品本位な審査で結果的には密度の高い作品が選ばれ、比較的若い人や新しい人の作品に秀作が見受けられました。

また、本年は選挙改革委員会の提案による改革で役員、委員の意識に変化が感じられ、逆境ともいえる情勢下で意欲的に参加している様子が窺えました。

106回展の特徴として、絵画部では会場構成を大幅に見直し、各部屋に特徴を持たせました。受賞作や推挙作品をまとめて展示し、比較して鑑賞したり、初出品の選抜コーナーや小品の秀作室を設け、従来のU35コーナーなどと共に工夫をしました。

彫刻部でも会場の中央に新しい試みとして募集した「新カテゴリー」作品を展示し、人気を集めていました。また、野外にも秀作が展示されましたが、鑑賞者の暑さに耐える様子が気になった日も多かったです。

他には、4部の会員による小品のチャリティコーナーや、日本在住のウクライナの子供たちの作品も休憩室に展示しました。

会期の前半には中原常務理事による出品者支援講座・ワークショップがあり、〈自分の「殻」を破り「描く」を10倍楽しくするために〉と題して、楽しんで描くには何が大切かを語り、参加者がサインペンを使って一枚は手元を見ながら、もう一枚は手元を見ないで自画像を描くというユニークな発想で、表現の発見を実感するという講座を開催していただきました。

また、会期の後半には、昭和女子大学の特任教授である木下亮先生をお招きして、「写実を超えて～スペイン・リアリズム絵画との接点～」と題した講演でスペイン美術の特徴であるリアリズムについて、17世紀のバロックから現代までの作品を取り上げながら、今日的な視点でスペインと日本人画家の接点をご紹介いただきました。

会期の後半は大型台風の接近にも悩まされましたが、鑑賞者の出足にはさほど影響もなかったように見受けられました。西日本各地で災害に遭われた関係者にはお見舞い申し上げます。

今年は駅貼り広告も取り止めましたが、入場者は昨年を大幅に上回り、喜ばしい限りです。不安定な世情が続く中での開催で良い結果が得られたことは、各支部の協力はじめ関係部署の担当者の尽力に依るところが大きかったと思います。

暑い、暑い106回二科展でした。感謝です。

絵画部 2階 第1室

会場入口

一人一人の作品を大切に
―第106回二科展 絵画部展示について

山中宣明

第106回展は入場者や出品者も増え盛会裏に終了し、光明の見える二科展となりました。展覧会部は本展と春季展と委員がそれぞれに特徴を持った展示に取り組む体制を取っています。また関東地区以外の会員も展示委員に加わり全国的な視野に立った展示を目指しています。開催前の委員会において106回展の展示は伝統を継承しつつ選挙制度の改革による新体制を象徴する新鮮味のある展示を志向するため次のような具体的展示プランを立て、可能な限り実施しました。

一階

①1室は新役員、大臣賞受賞者等を中心に展示するが例年通りの定位置にせず、既視感のない新鮮な配列にする。

②2室を倍の広さにして新役員、運営委員等の大作を中心に1室同様のスケール感。

③一部屋一部屋を広くして引きが取れ会員の大作が引き立つようにパネリングを変えて各部屋を見過ごさない導線にした。具象的傾向と抽象的傾向の部屋を設置。

④12室には会員、会員推挙者、会友優作を一同に展示し、新しい息吹を演出。

⑤13室は二科ショップが休憩室に移転し広くなり会員賞受賞作と会員大作を展示し伝統の九室会のような現代性を感じさせる部屋にした。

⑥14・15室は会友賞等会友2点入選中心に、彫刻部と融合できる作品を選抜。

二階

①準構成員である会友の作品が映えるよう、例年より作品間にゆとりを持たせ、2点入選部屋と1段部屋、入選者とのすみ分けを心がけた。

②1室には会友推挙や特別賞、長壁には2点入選を展示、2室抽象、8室具象も継承。

三階

①1室には特別賞や2点入選優作を展示、2室抽象、11室具象的傾向を継承、特選も一堂に展示し受賞作をさらにアピール。

②12室の新人奨励室は継承。

③新たな試みとして4、9室に初入選優作を展示、新たな出品奨励策とした。また18室に50号サイズの部屋を設置。今後を見据え、サイズに関わらず小品でも密度のある作品は優遇し、奨励していくことの視覚化を図った。

休憩室のウクライナ作品展示近くには、テーマにふさわしい祈りや子供を描いた会員の作品を展示し、多くの入場者の関心を引く展示にした。

今後の課題として①二階の会友2点入選をさらに充実させ会友の存在をアピール②三階入選者の展示にゆとりの出る展示工夫をする③受賞作品の配置を研究し、各階各部屋に見せ場を作る④小品の展示をさらに改善、などが挙げられます。

公募団体は歴史的特質として作家集団であると同時に育成機関でもあります。一人一人の個の表現を打ち出すとともに、出品者の意欲を掻き立てられる展示にするべく広く意見を賜りながら、よりよい展示を目指していきたいと思います。

絵画部 1階 第2室

絵画部 3階 第12室(U35奨励室)

絵画部 3階 第12室(U35奨励室)

絵画部 1階 第15室

第106回二科展　審査・会場評

黒川 彰夫

今年もコロナ禍のため、審査会場の人数制限があり昨年同様少人数の審査となりました。

理事長、常務理事、理事、監事、運営委員の計25名で行われました。まず会友の審査、次に一般の審査そして賞候補までを3日間で行い、4日目からは上記のメンバーに各支部長が加わり、密にならないようにバックヤードを使い最終の賞審査を行いました。

このシステムになって心配されたのは、審査に偏りが出るのではないかということでしたが、昨年の結果を見てもその心配は無く作品本位で審査されていたと思いました。今回も作品本位で選考することは変わりなく、入選、受賞作、と遜色の無い作品が選ばれたと思っております。

審査風景

5日目は内閣総理大臣賞、東京都知事賞、会員賞に外部委嘱審査員2名と理事が審査に当たりました。内閣総理大臣賞の田浦哲也会員は、理想と現実との空間で彷徨う人間の心理をメカニックな造形で表現し、落ちのある面白さがあります。東京都知事賞の谷口貞久会員はシナベニヤを組み合わせ、彩色した所に彫り込みを入れ面白い効果を出し、継ぎ目の変化を生かした動きのある形が織りなす美しい色の抽象です。

さて会場構成ですが、今回は何か気持ちの良い空間を感じました。それは、パーテーションの置き方により大きなスペースが取れたことからくるものと思いました。

1Fの1室は代表的なものと最近注目されてきた作品が並び、2室、3室は重鎮の作品、以下独自の表現を追求する会員の作品が展示され、13室などは会員の中でも新しい傾向の見られるものが並びました。14室は2点入選の作品が並び次期会員候補として大いに期待できるものであり、特に久田千恵子さんの視点の面白さと表現の柔らかさ、安新治さんの都会的センスなどに注目したい。15室では永田治子さんの水墨的表現が今後どう展開するか楽しみであります。

2Fは1室に受賞者が並び、中でも前川普佐雄さんの画面一杯に細密に描かれた桜は見事、坪田裕香さんの硝子の質感の表現、それぞれに次代を担う片鱗を見せています。

3F1室、SOMPO、上野の森両美術館賞は近藤隆弘さんの生命力を感じさせる動き、塩川晴美さんの発想の面白さと透明感とそれぞれに色彩豊かな作品が選ばれました。9室に初入選、11室に2点入選を纏めたところは、見やすくなりスッキリとした展示になりました。12室U35の部屋は若い力が溢れ未熟ながらも良い作品が並びました。特に福岡ゆらりさんの白のモノトーンで描かれた作品の今後の展開に興味を持ちました。

第106回二科展 受賞者

内閣総理大臣賞　田浦 哲也［福岡］
文部科学大臣賞　山田 將晴［愛知］
東京都知事賞　谷口 貞久［奈良］

（絵画部）

二科賞
今泉 光治［神奈川］

パリ賞
前川 普佐雄［埼玉］

SOMPO美術館賞
近藤 隆弘［愛知］

上野の森美術館奨励賞
塩川 晴美［静岡］

会員賞
有馬 広文［鹿児島］
石崎 琇子［千葉］
及川 英之［宮城］
小出 和枝［兵庫］
徳永 スエ子［愛知］

会友賞
磯貝 文利［愛知］
大西 正昭［福岡］
菊島 ちひろ［山梨］
木村 隆行［愛知］
黒川 壽子［千葉］
佐藤 幸光［東京］
島崎 紗椰［京都］
すぎもと 洋子［神奈川］
竹川 和［愛知］
田原 馨［広島］
坪田 裕香［石川］
中澤 純代［神奈川］
久田 千恵子［愛知］
平澤 紀久子［京都］
堀谷 莉恵［熊本］
前田 喜久子［東京］
前橋 伸哉［東京］
森 千恵［愛知］

特選
飯干 智子［愛知］
伊藤 茂［岩手］
伊藤 裕［愛知］
井上 貴義［福岡］
上杉 昭芳［新潟］
及川 寿美子［宮城］
亀田 憲子［神奈川］
川路 聡美［富山］
齋藤 照美［栃木］
島村 薫［兵庫］
須佐 美恵子［大阪］
鈴木 健一［京都］
竹中 美浪［愛知］
長門 春美［埼玉］
中村 月江［東京］
濱本 安紀子［石川］
林 里美［滋賀］
藤原 弘美［大阪］
丸山 良二郎［鹿児島］
宮崎 洋子［石川］
三輪 修［宮崎］
村上 元彦［愛知］

二科新人賞
福岡 ゆらり［愛知］

新人奨励賞
岩清水 唯香［青森］
浦 真斗花［石川］
大森 勇人［静岡］
加治木 成美［京都］
安川 久美子［福岡］

会員推挙
後藤 寿美子［熊本］
芝田 満江［神奈川］
筒井 通子［奈良］
鶴田 英輝［福岡］
富秋 和子［神奈川］
中野 紀三朗［山梨］
星野 敦郎［新潟］
宮本 恵美子［東京］
邑井 吉治［京都］
柳澤 綾子［京都］

会友推挙
相原 俊幸［神奈川］
嵐澤 蒼樹［石川］
有澤 英子［石川］
石見 香賀里［福岡］
上原 淳［千葉］
大吉 正子［茨城］
川島 正［熊本］
桑子 純子［愛知］
志波 宏子［和歌山］
高橋 さち［千葉］
田中 勢智代［愛知］
前川 普佐雄［埼玉］
宮田 春奈［石川］
森 泰秀［佐賀］
森山 麗子［兵庫］
矢島 初子［東京］
山本 知子［鳥取］
米村 保明［熊本］

（彫刻部）

二科賞
該当者なし

ローマ賞
林 一平［石川］

彫刻の森美術館奨励賞
吉田 タカヨ［沖縄］

会員賞
該当者なし

会友賞
篠木 玲子［埼玉］
角谷 豊明［新潟］
玉田 真理［東京］
浜田 修子［東京］
細田 愛由美［島根］

特選
宮川 晴香［神奈川］

会員推挙
浅草 義治［愛知］
荻野 弘一［新潟］
澤田 志功［埼玉］
吉田 朋世［奈良］

会友推挙
川口 三千雄［東京］
坂本 絢佳［山形］
佐藤 しず子［宮城］

第106回二科展 受賞作品 ― 制作の視点

■内閣総理大臣賞　宇海の差値　172×260.6

内閣総理大臣賞　田浦 哲也

作品タイトルは『宇海の差値』と書いて、「うみのさち」と読む。青木繁の『海の幸』からイメージを飛ばした作品だ。

海から上がって、進化をつづけてきた人類は、医学の進歩により、死を免れ、まるで死後を生きているような感覚に襲われる。このように人類は自然な成り行きを変更したり乗り越えてきたように思う。ところが、ふと見えない未来をのぞいてみたら、進化の過程の遠い過去の自分のしっぽが映っていた。そんな先行きの見えない不安な時代を描いた。

■東京都知事賞　manière gravure／版画の手法
274.5×182.5

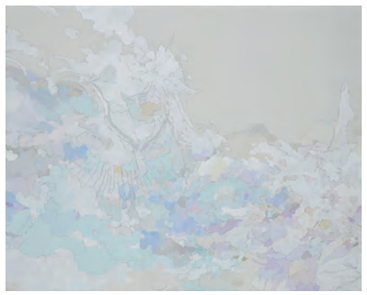
東京都知事賞　谷口 貞久

制作方法をよく質問されます。まず組合わせたシナベニアに不自由な線で下絵を描きます。その後彫刻刀で掘り、版画の技法を施します。版画の手法をいかにタブローにできるかという試みの制作なので、着彩は油絵具で一気に行います。失敗すれば着彩をイチからやり直します。刷らずに乾かしてタブローとして発表しています。

■SOMPO美術館賞　繁殖―新天地を求めて―
F100　近藤 隆弘

■パリ賞　武蔵野の桜　F100　前川 普佐雄

■二科賞　夕凪　F100　今泉 光治


■二科新人賞　心透Ⅰ
F100　福岡ゆらり

■上野の森美術館奨励賞　生命
F100　塩川 晴美

第106回二科展
受賞作品

作品寸評―第106回展 受賞作品から

夢のあとに　伊藤　裕

伊藤　裕

大胆でインパクトのある、デフォルメされた人物のような黒いかたまり。

盛り上がった白い川の流れの如し

マチエールの面白さも効果的に描かれている。

（鶴岡　義詮）

Trip –birth–　及川寿美子

及川寿美子

ほぼモノトーンの色調で構成されたインパクトのある作品です。大きなフォルムが不思議な空間を形成しています。独特な形は様々に想像を膨らませ、そこに生命の神秘やエネルギーも感じさせてくれました。今後の更なる発展を期待しています。

（米田　整弘）

月の雫　亀田憲子

亀田　憲子

柔らかな人物の肌と背景の固い石のような質感の対比が面白い。

二人はまるで囚われの身でありながらも、背後に見えるブルーの空が、ここから抜け出せる希望の羽根をイメージさせる。

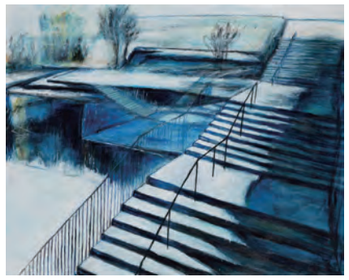
（鶴岡　義詮）

KITCHEN JUNK「わたしの世界」
齋藤照美

齋藤　照美

一見、食器、金属、ガラスなどの光の描写が主題のように……だが、だまされてはいけない。床や背後の板の複製化したような技法、まるで板の上に描いたようでびっくりした。おもわず画面をこつんとたたいてしまった。ごめんなさい。

（齋藤　賢司）



STEPS-2　須佐美恵子

須佐美恵子

まず、階段を大胆に捉えた構図が目を引きます。ブルーを基調に軽やかに描かれた静謐な画面。微かに塗られた黄色が温かみを添えていて詩的な空間を創出しています。独特な空気感が魅力的で心地よく伝わってきます。これからの展開が楽しみです。

（米田　整弘）

予兆１　竹中美浪

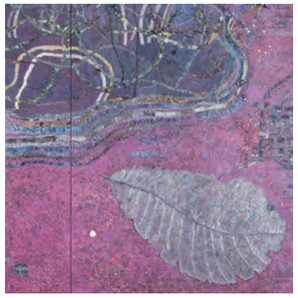
竹中　美浪

電信柱を下から見上げた面白い構図が成功している。三角形の奥行きと立体的、安定感もある。

目線を変えるだけで、不思議な魅力的な絵に変化する。

（鶴岡　義詮）

作品寸評―第106回展 受賞作品から



季節の中で…還　長門春美

長門　春美

暖かみのあるパステル調ピンク色の大胆な絵画。

点描画とコラージュを組み合わせて、色々な細かい工夫を凝らしている。

大地に落ちている大きな葉。その上の抽象的な公園の花壇を思わせる細かいマチエール。両方の大きさのギャップが効果的である。

（鶴岡　義詮）

瞠　中村月江

中村月江

暗いなかに、それよりも黒いケモノがこちらを上目づかいで、やわらかくにらんでいる。こわいものが、やさしいものに見えてくる。守ってくれる存在なのかもしれない。

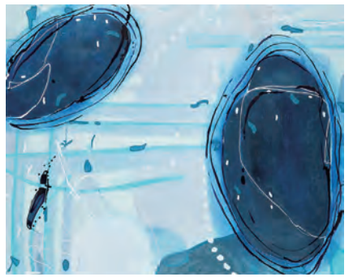
（齋藤　賢司）

遊びの後　濱本安紀子

濱本　安紀子

『ニュアンス』という言葉がはじめにうかんだ。どこもかしこもニュアンスが心にくい。味があるというんでしょうか。暗いけれどもあたたかい空間のなかに、L字形の朱色の色面が画面をつくっている。あちこちにちりばめられた遊び用具がファンタジーをさそう。

（齋藤　賢司）



NOVA　藤原弘美

藤原　弘美

画面を大らかに浮遊するフォルムが宇宙的な世界に誘い込みます。リズミカルな筆致が軽快で洒落たセンスを感じさせてくれます。フォルム、色彩など全体にすっきりと簡潔に表現され、作者が楽しみながら描いている気持ちが伝わってきました。

（米田　整弘）

心透Ⅰ　福岡ゆらり

福岡　ゆらり

画面全体が白を基調にし、うっすら浮かび上がる色調が爽やかな優しい作品となっています。ユニークな画面構成で不思議な世界を生み出しています。また、若々しい新鮮な感覚での繊細な描写に好感が持てる作品です。これからどのように発展していくのか次を見てみたいです。

（米田　整弘）

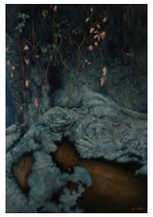
油風　安川久美子

安川　久美子

ふしぎな雲、暗い高層ビル群、水面へのうつり込み、それらが上下対称、左右対称なのだが、うつり込み部分の描き方がおもしろいから単なる対称ではない。中央の天の岩戸がひらくような、たった数㎝の明部が中心線をつくって、みごとに画面をささえている。

（齋藤　賢司）

絵画部 新会員紹介


朽ちる２

後藤 寿美子

自然や物が変化していく、その時々の美しさと感動を自分の感覚と融合させ、表現していきたいと思います。

第101回 特選／第102回 会友推挙
第103回 会友賞／第106回 会員推挙

擬態

宮本 恵美子

壁面との対話をくり返しながらと、次元を超えた描写に遭遇した時が忘れられず描き続けています。苦戦の中で挑戦し発見する喜びを楽しみに探し求めていきます。

第101回 特選／2017春季二科賞
第102回 会友推挙／第104回 会友賞
第106回 会員推挙

えとらんぜ homme

富秋 和子

顔のようで顔じゃない人のようで人じゃないかたまり、エスキースも無い世界はいつもむずかしい……。

第98回 特選／第99回 会友推挙
第102回 会友賞／第106回 会員推挙

珊瑚の化身（C）

鶴田 英輝

色即是空空即是色
二科会の歴史の重みを背負いながら、己に負けない絵の道を精進したく思います。
己の力にあらず　今だ道なかば・・・　合掌

第95回 記念賞／第98回 会友推挙
第99回 会友賞／第106回 会員推挙

PROMISE Ⅲ

芝田 満江

現実のカタチから離れて想像を重ねていく。
やがてモノクロと僅かな色彩の中で、画面は動き始める。

第88回 特選／第103回 会友推挙
第104回 会友賞／第106回 会員推挙

海の夢Ⅲ

筒井 通子

海の中に経験と心情や過去現在未来を創造して描くことに喜びを感じ、その時々の偶然を楽しんでいます。

第102回 特選／2018春季二科賞
第103回 会友推挙／第104回 会友賞
第106回 会員推挙

仰向く

星野 敦郎

思春期真っ盛りの高二の娘が題材。ただ直向きに生きる多感な時期。想い描いた未来になれと強く願う。

第79回 特選／第95回 会友推挙
第103回 会友賞／第106回 会員推挙

乳くびの上に蛙（Ⅲ）

中野 紀三朗

心の赴くままに色々と描き、その積み重ねから発想の転換をし、自己への挑戦が今回の作品になりました。

第72回 特選／第74回 会友推挙
第88回 会友賞／第106回 会員推挙

成りゆく情景Ｃ

邑井 吉治

段々と抽象になった。以前の花鳥山水の先を求めた。単純な形の構成と色の抑揚を考えて一景を創ってみた。

第85回 記念賞／第93回 会友推挙
第99回 会友賞／第106回 会員推挙

夏来

柳澤 綾子

「香りの記憶」がテーマです。感情を揺さぶる、心をざわつかせるものそんなものを描きたいと思います。

第99回 特選／第102回 会友推挙
第103回 会友賞／第106回 会員推挙

彫刻部　集合写真

彫刻部　総評

島田 紘一呂

コロナ禍の中、第106回二科展が9月7日から9月19日まで国立新美術館において開催された。残念ながら今回もオープニングセレモニー、テープカットなどは行われなかった。

彫刻部では、万全を期すべく予め体温測定をお願いし、送風機を持ち寄っての搬入・入落審査・受賞会議を行った。従来であれば搬入、展示、懇親会などで一般出品者との触れ合い、コミュニケーションが取れたがそれも叶わず、何か方法はと考え、初入選者には入館証と作品プレートに初入選シールを付け、会場で見かけた会員が積極的に話しかけることとなった。今回は一般出品者68名（初出品者30名）会友28名、会員52名での会場構成である。

出入り口の受付の後ろにあった壁面を外し、奥まで見渡せる広いスペースを形成した。二科ショップ、チャリティコーナーを休憩室に移し、絵画部との間に壁面を設けたことにより、独立した空間を作ることが出来、新しい会場構成となった。

増員が見られた初出品作は、全スペースに偏り無く展示されている。それは受賞作品も同様である。また材質にも気を配り同じものが集まらないように計画され、どの作品も展示場所との違和感なく収まっていると感じた。

新設されたカテゴリー企画、30 cm立方の中に収まる作品の応募をスタートさせた。35×35×110の美術館台座に21点の小品が二筋のカーブを描いて展示してある。大作とはまた違う小品の世界が始まった。どう進化し、膨らんでいくのか期待を込めて見守りたい。来年、出品してみたいという方に幾人かお会いした。台座についてはもう少し低い方が良いのではとの声が届いている。室内から休憩室の巡回展作品を観ながら野外展示場へ出ると、低かった木々がしっかりとした緑のカーテンへと育ち、爽やかなスペースを作り出している。そこにはゆったりと作品達が点在している。

初出品者増、新しいカテゴリーと壁面構成、活気ある107回展を迎える準備は整ったと感じた。

彫刻部　会場

第106回二科展 受賞作品 ― 制作の視点

文部科学大臣賞　地の記憶Ⅲ　山田 將晴

ローマ賞　そして、これから　林　一平

会友賞　見つめる　細田愛由美

文部科学大臣賞　山田 將晴

素材特性を活かして、生物の強い生命力、力強さを、折れてしまわないかと思うほど柔軟なカタチで、折れないであろうギリギリのところで、横方向に「すーっ」と伸びて行く様を思い制作しました。

ローマ賞　林　一平

コロナ禍。多くの方が絶望、危機に、また社会の変動に不安と閉塞感に戒められた。闇の中から見える希望という光のトンネルをずっと追い続けていた自分。しかし希望はしっかりと闇の中でも力強く輝いている事を改めて気づかされた。心の葛藤をテーマに。

会友賞　細田 愛由美

八年前、モデルだった家族の猫が旅立ってからは身近な人をモデルに制作をしています。

自然に囲まれた田舎での生活で、自分もその一部であると思う時、ありがたいという気持ちが生まれます。

今を重ねて、感謝や感動を形にしたいと思います。

会友賞　Try on. ～試着しよ～
玉田真理

会友賞　同床異夢　篠木玲子

会友賞　snow dome　角谷豊明

会友賞　玉田 真理

「試着する」という意味の英単語、Try on（トライオン）からの、トラとライオンの掛詞です。

いつもと違う自分になれると、ちょっとドキドキしながらライオンを着ているところです。この後きっとお互い交代で試着していると思います。

会友賞　篠木 玲子

学生時代からグラフィックデザインをやっていました。55才になった時、立体制作に強く惹かれて、早20年。毎年新しい事にチャレンジ、チャレンジと思いながら作り続けて、今回の受賞。

作品は、サナギから蝶に脱皮する時の未知へ飛び立つ不安と勇気と憧れを表現しました。これから増々挑戦していきたいと思っています。

会友賞　角谷 豊明

豪雪地帯に住んでいる者として雪は生活の一部。

厳しい冬を日々我慢強く暮らしていると降雪後に力強く、美しい白銀の世界が現われる。

今回は豪雪地の風景を切り取り、雪の降り積もった建築物をモチーフに雪国の一コマを表現しました。

特選　きみはcrooked wood
宮川晴香

彫刻の森美術館奨励賞　作為の境界
吉田タカヨ

会友賞　ハミデル　浜田修子

会友賞　浜田 修子

美術の世界から離れ、気が付けば二十五年が過ぎていました。後先考えず彫刻の世界に復帰しても、思うように出来ずもどかしい日々が続き・・・今は彫刻を作れる事に感謝し、「かたち」と「色」を組み合わせた私なりの表現が出来ればと思っています。

受賞作品寸評

彫刻の森美術館奨励賞　吉田 タカヨ

鉄の薄板で構成されたフォルムは圧巻で、鎚跡やタップ溶接にも作者の美意識を感じる。タイトルの示す通り、作品制作は常に作為の境界との闘ぎ合いである。

自身の境界の捉え方も変容して行く事と思うが、どのような形で実を結ぶのか、今後の動向に注目である。

（長谷川　登）

特選　宮川 晴香

圧倒されるような巨樹と出会った作者は怯むことなくそのたたずまいを見つめて鑿を当てながら対話する。無造作に伐採された原木はやがて一つの意思を持ってしなやかな形状を現した。

作者がこの大木に向かって制作している姿を想うと、豊かな気持ちになりました。

（安田 正子）

彫刻部 新会員紹介

浅草 義治

オリンピック選手の言葉に決して諦めなければ夢は叶うと言った人がいます。初出品から46回目、73歳で会員推挙、夢のようです。

これからも熱い鉄と対話しながら自分の個性を活かし密度の高い仕事をしていきたいと思います。

第78回 特選／第82回 会友推挙
第101回 会友賞／第106回 会員推挙

荻野 弘一

多くの方々にお世話になり励まされ会員に推挙されるまで出品し続けられたことに率直に皆さんの御厚情に感謝です。二科会会員に推挙されて何か心構えが変わるかと言えばそれはないでしょう。これまでと変わらず石と向き合い語り合い、彫り発表し続けるのみです。

第101回 特選／第102回 会友推挙
第104回 会友賞／第106回 会員推挙

澤田 志功

制作に使用している楠という素材には、それ自体に「生命」が宿っている為なのか「曖昧さ」と「リアリティ」を同時に表現するのに適していると強く感じています。

そんな事を考えながら密度の高い表現を全ての作品に託したいと思います。

第103回 彫刻の森美術館奨励賞
第104回 会友推挙／第105回 会友賞
第106回 会員推挙

吉田 朋世

歴々の彫刻家が「自らの花を咲かせるように」と後進に語ったように、私は「彫刻とは何か、芸術とは何か」という大きな問いを持ちながら、自らの意志を体現するような作家でありたいと思います。

第98回 特選
第99回 特選・会友推挙
第102回 会友賞／第106回 会員推挙

新カテゴリー作品

NIKA 106th 2022 event memo

9月7日　授賞式　14:00～　3階講堂

生方理事長 総評

内閣総理大臣賞　田浦 哲也

9月9日　支援講座・ワークショップ　13:00～　3階講堂

第106回二科展　支援講座・ワークショップ参加者募集［先着70名］

◎生方純一理事長が語る
「二科・昨日、今日、明日、そしてその先」

常に時代の先を歩み続けてきた二科展ですが、時代の変化には著しいものがあります。こんな混沌とした時代にあって、二科展の目指していく道は。
公益社団法人として国内での展覧会は勿論、世界への文化交流なども視野に入れた活動などが望まれています。

◎中原史雄 支援講座・ワークショップ
自分の「殻」を破り「描く」を10倍楽しくするために

誰に頼まれるわけではなく、絵を描き続けている、だから「ワクワク」しなければ意味がない。長年二科展に出品してきた経験をもとにまずはあなたのリフレッシュ、そしてインパクトのある作品を楽しんで描くには何が大切かを語ります。ワークショップ「これも私です」

中原史雄 支援講座

9月16日　講演会　14:00～15:30　3階講堂

木下 亮氏（昭和女子大学特任教授）

写実を超えて
～スペイン・リアリズム
絵画との接点～

スペイン美術の特徴であるリアリズムについて17世紀のバロックから現代までの作品を取り上げながら、今日的な視点から考えていきます。さらにスペインと日本人画家との接点についても紹介します。

ワークショップ

彫刻部チャリティー
「アートの芽を育てる 新たな取組み」

山田 美智子

チャリティーの意味を調べると、慈愛、慈善、博愛、思いやりの言葉が並びその語源は古代ギリシャ語で「親切」を意味していました。そして藝術という言葉には「心に種をまく」という意味が含まれています。社会的救済活動と来場者・アーティストへの親切とは何かを、時間をかけて議論した結果、芽を育てるように継続できる環境を作ることが必要だと考え至りました。

新たな取組みとして、来場者には作品との出会いのワクワクを提供し種をまき、作家には従来方式に加え還元方式を導入し、制作費の一部を還元することにより作家が育つ糧としました。

さらに政府の推奨する電子マネー決済を二科展として導入し、国立新美術館では公募展初の採用としたことで、誰においても安全で「親切」な循環システムを構築しました。

〝ワクワクの種〟として取入れた「ART CUBE」のアクリルケース15㎝の立方体は、見る側の意識を集中させ作品の力を空間に集約しました。会場ではケース越しに光を受け輝く作品や、そのままの形で静かに語りかける作品からは、大作では見ることの出来ない繊細な手仕事や遊び心を感じ、出品者の学びの場となる特別な空間になりました。また2年越しの開催となったことから、チャリティー参加の意義が彫刻部に浸透し、30点の作品を提供いただくことができたことでも、新しい始まりの風を感じています。

美術館と一丸になって進めた電子マネー決済では、一人で10点購入された来場者もあり、ワクワクを体験することができました。物販・チャリティーにおいてはクレジット利用が50％と好調で、QRコード決済によるチケット販売も今後増える見通しが立ち、新たな取組みの成果を実感しています。

絵画部、彫刻部　会員によるチャリティー展示

野外展示場から見たチャリティーショップ

ウクライナ子供達の作品

◇二科ショップ・チャリティー報告

1階の会場内にあった二科ショップが、今年は休憩室に移り、彫刻部の野外展示場へ続く外光の入る明るい空間で、開放感溢れる展示が出来ました。来場者の方々もゆっくり鑑賞できたと思います。絵画部の額装作品、彫刻部の石、木、土、石膏、金属などさまざまな材質による作品、アートキューブなど新たな企画も加えチャリティーコーナーはさらに充実した成果を上げることが出来ました。

今年から導入した電子決済によって売り上げも順調でした。

売上総額1、405、900円から経費206、620円の支出を計上し、今後のチャリティー活動を継続するための準備金として447、900円をチャリティー基金として計上させていただきます。

下記の通り公益社団法人二科会としてチャリティー販売の収益の内、寄付と芸術義援活動ができましたことを報告いたします。

寄付活動費
NHK厚生文化事業団：　200、000円
日本ウクライナ友好協会：　200、000円
芸術義援活動費
ウクライナ作品展示経費：　558、000円

第106回二科展 巡回展スケジュール

◇大 阪 展	令和４年11月３日～11月13日	尼崎市総合文化センター
◇東 海 展	令和４年12月21日～12月25日	愛知県美術館ギャラリー
◇京 都 展	令和５年１月24日～１月29日	京都市京セラ美術館
◇広 島 展	令和５年２月７日～２月12日	広島県立美術館 県民ギャラリー
◇鹿児島展	令和５年３月５日～３月12日	鹿児島県歴史・美術センター黎明館
◇福 岡 展	令和５年３月14日～３月19日	福岡市美術館

大阪巡回展 会場

地域展　二科展出品者支援

◆地域支援 ―支援担当理事が会場講評会など各地の出品の方々を支援します―

北海道支部展　令和５年５月９日～14日　大丸藤井セントラルノーザンギャラリー
・５月８日　講評会（予定）

愛媛支部展　令和５年５月17日～21日　松山県立美術館
・５月20日　講評と四国地域懇談会（予定）

東北連合展　令和５年５月26日～30日　秋田県立美術館
・会期中　レクチャーを予定

東北連合展会場
（2022年）

◆地域展の役割――関西二科展　2023年4月11日～16日　京都市京セラ美術館

関西２府４県（滋賀・京都・奈良・大阪・和歌山・兵庫）で行われている関西二科展について紹介します。

関西二科展について

関西支部長・理事　尾崎　功

●１９６６年 第50回二科展が終わった翌年、第１回関西二科展が大阪高島屋百貨店で、第２回展は大阪大丸百貨店での開催、第３回展から京都市美術館（現・京都京セラ美術館）で毎年開催されるようになりました。発足当時の絵画部会員は藤井二郎、松井正、吉原治良、伊庭伝治郎、井上覚造、松葉清吾、吉村勲、猪田七郎、田川覚三、大淵陽一、辻本敬三、福島淳志郎、赤羽恒夫、彫刻部では大西金次郎、日高正法、平川正道、松下隆治、長谷川雅司、村岡三郎、木村敏、小山由寿、東山正久、平野秀一で、関西在住の二科会会員・会友および二科展出品者（前年までの入選者で今年二科に出品する者）による展覧会で、とくに新人に対して広く研鑽の場を提供しようとの試みで始まりました。

時代背景もありますが、関西から二科展への出品者を増やすこと、二科会の趣旨にあるように、新しい価値の創造に向かって制作上の自由と個性の尊重をうたっていました。

当時の絵画で二科展入選者は50名余だったのが、２、３年後には120名余りになって大作もＯＫ、100号２点も出品できる場として強制のない刺激を受けながら現在の会員・会友につながっているものと思います（現在は会員・会友も増え、壁面の都合上、会員だけは30号程度との制限があります）。

第51回展（２０１６年）まで、会期は４月～５月の２週間でした。桜の花咲く京都、来場者数は少ない年でも約６，０００～１２，０００人。２０１７年から２０１９年は美術館改修工事のため、２０２０年はコロナにより、４年間の休みがありました。

第52回展（２０２１年３月）第53回展（２０２２年２月）はコロナ禍の中での開催。美術館の使用会期等制限のある中、二科展への出品者のことを考え、課題はたくさんあります。

絵画・彫刻・デザイン・写真４部一丸となって前向きに取り組んできました。

第１回展から出品を続けてきた一人として記しました。

地域展の役割

京滋支部・理事　田川絵理

関西支部長が語って下さった「関西二科展の成り立ち」から個人的思い出が沸いてとどまりません。

本展に入選すれば次の関西二科展に出品する事ができる！　しかも号数制限無し!!

本展に100号１点出品するにも50号２点とセットにする縛りがあった時代のことですから、まずは100号を鑑別無く陳列してもらえる悦び！ はじめて200号を制作したのも関西二科展でした。

制作の自由と個性の尊重、まさに強制のない刺激をうけながらインキュベーター孵卵器として緩やかに存在していました。

関西二科展で受賞しては本展の賞につながって…ほとんどの関西会員会友がたは振り返れば気付かぬ裡にもこの経過を辿ったのではないかと思います。

いま〝ひろく研鑽の場を提供〟するべき側の立場となって参加作品サイズこそ30号程度、会員として後進に壁面を提供してはおりますが、インキュベーターとして存在できているか、観るけれどもあれこれ指示したり口を挟まない達人にとうてい成れていないことを反省します。

団体展は絵を発表するところであり絵を教える処ではない、と先達の言葉、改めて肝に銘じなければと思います。

2023春季二科展　予告

2023リニューアル春季展への誘い　展覧会担当理事・春季展展示委員会　山中 宣明

2023年の春季展は、東京都美術館の１Ｆに1.5倍に増床し、
期間も2週間となって２回目の開催となります。
国立新美術館での本展とは違った二科展の魅力を打ち出すべく、
２つの柱を趣旨とし、絵画・彫刻とも新企画を検討・準備しています。

① 会員の実験的な表現の場とすること

●フリースペースの設置　ワクワク感を大切に
会員の規定サイズの力作群に加え、素材・表現方法・展示法などを自由に展示するスペースも設けました。前回は理事中心でしたが今年は広く会員にも参加を募り、十数名の会員の意欲作が展示されます。彫刻部も参加予定でコラボ的空間も乞うご期待。

② 本展とは違う視点・企画で一般・会友の奨励・育成の場とする

●一般・会友選抜展
絵画部の第106回二科展の受賞者、会友推挙者から56名を選抜し、F130号までの大作にもチャレンジした新作を1～3室に展示します。優秀作には春季二科賞・春季賞も授与。ギャラリートークも実施。彫刻部も期待の会友・一般から12名選抜。

●個展形式特別展示「７つの個」
絵画部一般・会友の近年の特別賞受賞者から今回は７名を最終選抜し、一人約10mの壁面に個展形式で自由に展示。７人の侍のそれぞれの個性のセッションとなる企画。
選抜作家の世界を語るトークも予定
選抜者：小原 禎二［神奈川］　畠中 富雄［大阪］　中澤 純代［神奈川］　前川 普佐雄［埼玉］
今泉 光治［神奈川］　近藤 隆弘［愛知］　塩川 晴美［静岡］

●春季展開催中の支援講座・ワークショップ
午前の部：**田川絵理 支援講座**
「私の無手勝流手前みそ的制作」
――デッサンがバラバラになる契機はジャズピアノだった?!

田川絵理

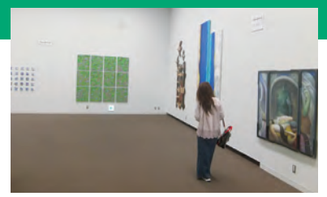
西 健吉

午後の部：**西 健吉 支援講座・ワークショップ**
「自分らしい創作活動の取り組み方について」
絵画制作を通して新しく自分を発見するポイントや基礎的な要素について語る。
ワークショップ「見なくても描けるもの」物の性質の理解と構成について説明しながら体験する
日時：2023年4月29日（土）午前の部：午前10時～（90分）　午後の部：13時～（120分）
場所：東京都美術館　講堂　　定員：各90名　　参加費：3,000円

●初めての試みとして相互研鑽の会員勉強会を開催予定
４月20日（木）午前　生方純一「107回二科展に向けて」
山中宣明「素材との対話・その可能性」
午後　中原史雄「一歩踏み出す表現には何が」
講座後　参加会員による懇談

各会員が支部や教室・学校等などで実施している出品者への有効な指導法や教材等の情報交換の場とし、作家として絵画表現の取り組み方や会にとって今必要な事を話し合う機会を設けます。

**新たな春季展として広く美術界に発信していきますので、
ぜひ会場に足を運び新たな息吹を体感していただきたいと思います。**


フリースペース

彫刻部展示室

2022春季二科賞　加藤弘子

個展ブース

講演会（2022年）

支援講座・ワークショップ
応募申込書はこちらから→
FAX：03-3354-4768
メール：nika@nika.or.jp

2023春季二科展 選抜出品予定者

■絵画部

《会友》
前田喜久子［東京］
平澤紀久子［京都］
磯貝　文利［愛知］
すぎもと和［愛知］
森　千惠［愛知］
竹川　洋子［神奈川］
菊島ちひろ［山梨］
木村　隆行［愛知］
久田千恵子［愛知］
黒川　壽子［千葉］
佐藤　幸光［東京］
大西　正昭［福岡］
島崎　紗椰［京都］
中澤　純代［神奈川］
相原　俊幸［神奈川］
嵐　蒼樹［石川］
有澤　英子［石川］
大吉　正子［茨城］
川島　正［熊本］
桑子　純子［愛知］
志波　宏子［和歌山］
高橋　さち［千葉］
田中勢智代［愛知］
宮田　春奈［石川］
森　泰秀［佐賀］
山本　知子［鳥取］

《一般》
飯干　智子［愛知］
伊藤　茂［岩手］
伊藤　裕［愛知］
井上　貴義［福岡］
上杉　昭芳［新潟］
及川寿美子［宮城］
亀田　憲子［神奈川］
川路　聡美［富山］
齋藤　照美［栃木］
島村　薫［兵庫］
竹中　美浪［愛知］
長門　春美［埼玉］
中村　月江［東京］
野口　晃［東京］
濱本安紀子［石川］
林　里美［滋賀］
春木　凛［大阪］
福岡ゆらり［愛知］
藤原　弘美［大阪］
丸山良二郎［鹿児島］
宮崎　洋子［石川］
三輪　修［宮崎］
村上　元彦［愛知］

■彫刻部

《会友》
角谷　豊明［新潟］
細田愛由美［島根］
篠木　玲子［埼玉］
浜田　修子［東京］
玉田　真理［東京］

《一般》
宮川　晴香［神奈川］
吉田タカヨ［沖縄］

帝国ホテル二科サロン

帝国ホテル二科サロンにおいて第106回二科展受賞者を中心に小品展を開催しています。

・会場＝帝国ホテル インペリアルタワー・ギャラリー

［入場無料］

2023年

第1期（1月10日～4月4日）

田浦哲也　石﨑琇子
筒井通子　星野敦郎
宮本恵美子　前田喜久子
森　千惠　木村隆行
相原俊幸　上原　淳
志波宏子　宮田春奈

第2期（4月4日～7月4日）

小出和枝　有馬広文
鶴田英輝　平澤紀久子
竹川洋子　久田千恵子
大西正昭　嵐　蒼樹
大吉正子　高橋さち
森　泰秀　山本知子

第3期（7月4日～10月3日）

及川英之　後藤寿美子
富秋和子　邑井吉治
磯貝文利　黒川壽子
島崎紗椰　有澤英子
川島　正　田中勢智代
森山麗子　米村保明

第4期（10月3日～1月9日）

徳永スエ子　芝田満江
中野紀三朗　柳澤綾子
すぎもと和　菊島ちひろ
佐藤幸光　坪田裕香
石見香賀里　桑子純子
前川普佐雄　矢島初子

絵画部会友　高柳　博　氏

二〇二二年九月二十三日逝去　享年86歳

略歴

一九八一年　第66回展　日本美術協会賞

一九八三年　第68回展会友推挙

一九九九年　第84回展会友賞

一般の出品規約は
下記のQRコードから
ダウンロードできます

彫刻部　絵画部

二科会
Instagram

ART_NIKA_NIKATEN

二科会公式インスタグラムでは
・会期中の会場風景
・受賞者インタビュー　など、
二科展の様々なシーンを
発信しています

事務局だより

第106回二科展では、国立新美術館公募団体でも初となるキャッシュレス化を導入。これにより、カード決済やスマホアプリでの支払いが可能となった。チャリティーコーナーでは彫刻の小作品を何点もご購入された方等がおられ…。導入の成果が得られた事は、そのプロセスに努力をしてきた山田会員をはじめ、初の試みに携わってきたスタッフの喜びは一入であった。

二科会は数年間に渡りウクライナとの交流を行ってきた。今年の事業計画では外交30年による交流展示を予定。しかし、七月の声を聞いてもウクライナ大使館と連絡が取れない状況であり、二科会は交流展示を中止または延期することとしたが、ウクライナへ芸術支援で何かできないか、チャリティーを行いたい、との声が理事会で取り上げられ、日本に避難するウクライナの子供たちに「今、子供たちにできること」コーナーと「祈りを込めて」のコーナーが実現。会場では出品したウクライナの子供たちや、日本在住の方々の笑顔を沢山見ることができたのが何よりであった。

美術団体として芸術を通して会員の気持ちを集約できるような義援活動をこれからも続けていけたらと思う。

事務局長　塙　珠世

第106回二科展 概要

表1

	入場者	（前回比）
一般当日	2,909人	（774増）
前売り券入場	2,730人	（1,212増）
高校・大学	382人	（58増）
チラシ割引	252人	（21減）
チケットぴあ	0人	（±0）
団体割引	49人	（49増）
企画割引	93人	（68増）
新聞社優待券	283人	（66増）
有料入場者	6,698人	（2,206増）
無料入場者	45,563人	（17,279増）
入場者合計	52,261人	（19,485増）

表2

搬入点数	106回展（昨年比）	
絵画・一般	1,837点	（104減）
絵画・会友	710点	（79減）
彫刻・一般	81点	（33増）
彫刻・会友	28点	（5増）
合計	2,656点	（145減）

表3　（ウクライナ特別展示を除く）

展示（遺作含む）	人数（前回比）	点数（前回比）	35才以下 出品者数（前回比）	35才以下 応募・在籍数（前回比）
絵画・一般	699名（43増）	762点（49増）	48名（10増）	48名（10増）
絵画・会友	214名（1増）	277点（21増）	6名（1減）	7名（±0）
絵画・会員	170名（6増）	170点（6増）	－	－
彫刻・一般	63名（22増）	66点（21増）	21名（8増）	21名（8増）
彫刻・会友	28名（6増）	28点（5増）	1名（1増）	1名（1増）
彫刻・会員	52名（4増）	70点（14増）	－	－
展示合計	1,226名（82増）	1,373点（116増）	76名（18増）	77名（19増）

編集後記

106回二科展は、ウイルス問題や世界不安の中多くの制限と工夫をしながら、新しい試みを積極的に取り入れ、二科会の方向性を示唆した展覧会になりました。コロナ禍は私たち二科会にも大きな変化を齎し、各委員会も、リモート会議を主流に考えるようになり、社会の変化と共に、二科会の変革も始まってきたという状況です。こうした中、前編集長から引き継ぎを頂きながら、ようやく発刊に至りました。

「思い切った刷新を！あなたらしいスタイルで！」という言葉を背に、当面は今までのスタイルを継承しつつ編集したいと思っています。

1979年6月、第1号が会員向けの機関紙としてスタート致しました。それ以降の先輩諸氏が築いてきた二科会の重みを感じながら、運営の見える化を図りつつ、二科展開催の報告を兼ねた紙面、更には会員、会友、一般出品者の制作の言葉が伝わるべく掲載を志して参りたいと思っています。今後、皆様から忌憚のない御意見をいただきながら編集に関わってまいります。ご寄稿いただきました会員の皆様、受賞者の皆様ありがとうございました。今号表紙は爽やかなイメージを狙ってみました。ここに第79号をお届け致します。

（深見）

2023春季二科展
2023年4月19日～5月2日
東京都美術館

編集委員
委員長（絵）深見　まさ子
委　員（絵）寺田　眞
〃　〃　渡辺　倭文子
〃　〃　酒井　とし子
〃（彫）山口　博司
〃　上田　快

令和四年十一月三十日発行
公益社団法人　二科会
〒160－0022
東京都新宿区新宿4－3－15
レイフラット新宿　501号室
電話　03（3354）6466
FAX　03（3354）4768

★ 二科ニュースweb入稿用アドレス：**newsnika@gmail.com**